広宣寺における庫裡の計画

—庫裡の空間利用と公私の領域構成をとおして—

■研究の背景，目的

一般的に庫裡（庫裏）とは，寺院建築の中で本堂や書院とは別に寺の厨房がある建物，または住職の住まいをさす．その建築形式は各寺の規模や歴史、地域性によって機能や規模、空間利用も様々であるが，主に寺の法要行事時に利用され，法事等の際の控室客殿としても利用されている．しかし，日常的には住職や寺族の生活のための場としても使われているため，庫裡は「寺としての場」= 公的空間と，住職及び寺族の「住宅としての場」= 私的空間が重なる領域として位置づけられ，その空間のあり方は，住職及び寺族，檀信徒の関係を繋ぐ重要な空間であるといえる．

長崎県有馬山広宣寺において2002年秋，開山100年記念慶讃事業として築庫裡の新建設が決定された．寺族の住まい方や行事等における利用の仕方も建物とともに年月を超えて受け継がれていることから庫裡の建て変えによりこの寺には，新たな住まい方，利用の仕方が生まれることになると考えられる．

本研究ではこのことに着目し，まず広宣寺の現状を把握するために，概要，空間構成の特徴，住職及び寺族の住まいとしての庫裡の日常的空間利用の方法及び寺行事時の空間利用の方法，その公私の領域構成，檀信徒との関係・コミュニケーションについて調査・分析し，考察する．その結果から寺にあるべき公共性を探り，広宣寺の庫裡における公私の領域のあり方を捉えた上で庫裡の設計を行うことを目的とする．

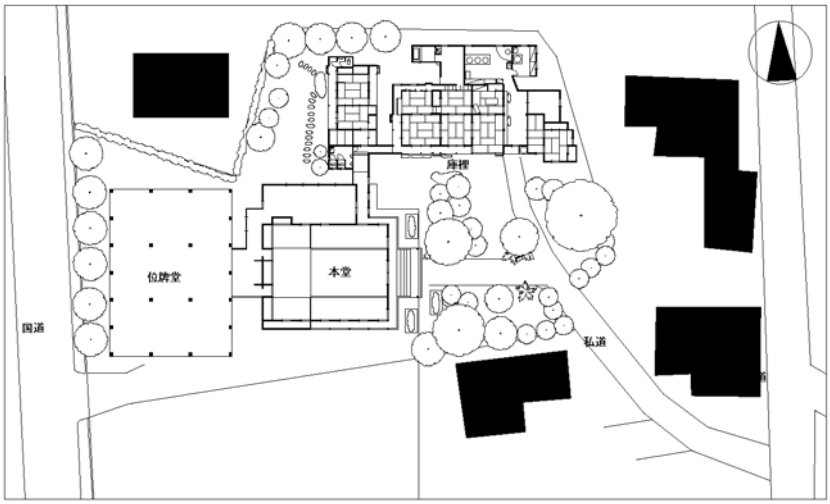
■寺の概要

広宣寺は長崎県南高来郡南有馬町に所在する．南有馬町は島原半島南東部に位置し，西部を中心に丘陵地が広がり，東側にしたがい次第に低くなり扇形状をなして有明海を臨んでいる．この山地の麓，東側海岸沿いの集落の中に広宣寺は建っている．広宣寺は，1909年7月2日，千葉県の日蓮宗寺院，広宣寺が現在の地に寺号移転し開山された寺である．開山に向けて，1895年に隣町に建つ当初の総代宅であった築80年の民家を解体し庫裡として移築された． 1922年，12月8日，地震により，本堂は全壊，庫裡は半壊するが庫裡は木造架構部分に金具による補強を施した上で再建された． 1951年には，庫裡に台所，新座敷が増築されてされて現在に至っている．

壇信徒は総数約367件でそのうち259件が南有馬町内に居住している．広宣寺は壇信徒との地縁的な関係によって支えられている寺である．

寺族は寺院においてその代表者と同居する家族で，寺族台帳に登録された者を指していう．寺族は常に宗門の興隆，寺門の繁栄と檀信徒の教化に寄与しなければならない義務が負わされている．寺族として庫裡に住まうということは，必然的に寺のために寄与することを義務づけられる．庫裡に住み寺の敷地内の建物及び庭の管理や訪問者への対応を行う．朝，庫裡や本堂の戸を開け掃除することから昼間の訪問者への対応，接客，夜の戸締まり，定期的な庭の掃除，本堂，位牌堂の掃除，行事時の諸雑用等，寺族が協力し，また時には壇信徒の手伝いを受けて行う．

寺では様々な年中行事法要が行われるが，主な行事においては寺側から食事が用意され，またこのとき庫裡において，台所はその食事を調理するため利用され，普段寺族が私的に利用している続き間が食事をふるまう広間として利用される．日常においては住職の住まいとしての私的空間の強い庫裡であるが，これらの行事時においては公的空間として利用されている．これらの食事は檀信徒のなかの有志が庫裡において，その準備から調理，配膳，片付けまでを行なっている．



現状配置図

■広宣寺における庫裡の空間利用及び公私の領域構成

開山当初から現在まで広宣寺の庫裡は六世，四代にわたり住み継がれ，また壇信徒の交流の場として利用されてきた．広宣寺における新しい庫裡の計画においてあるべき新たな公私の領域構成を捉えるために，現在の庫裡においてその空間利用と公私の領域構成の分析を行った．空間利用は日常時と寺の行事時で大きく違ってくる．

□日常時

庫裡内の多くが私的空間として利用され，建具が閉めきられることで境界がつくられ客人が立ち入らない．その他の部分は寺の施設としての公的な空間利用と住宅としての私的な空間利用が重なっており，寺の訪問者も寺族も同様に行き来し利用する．

□行事時

日常において私的に利用していた空間の一部が開放され公的空間として利用される．続き間は食事をふるまう広間として，居間は配膳室として利用されるため，日常時の私的な利用を撤去することにより空間を対応させている．また台所においてはかまどを利用して炊き出しを行うため，台所全体が公的に利用されている．

図1　庫裡空間利用ー日常

図2　庫裡空間利用ー行事時

このように現在の庫裡は，公と私の領域を各場面に対応させ使い分けることで限られた空間をフレキシブルに利用していることが特徴といえる．

■庫裡の計画

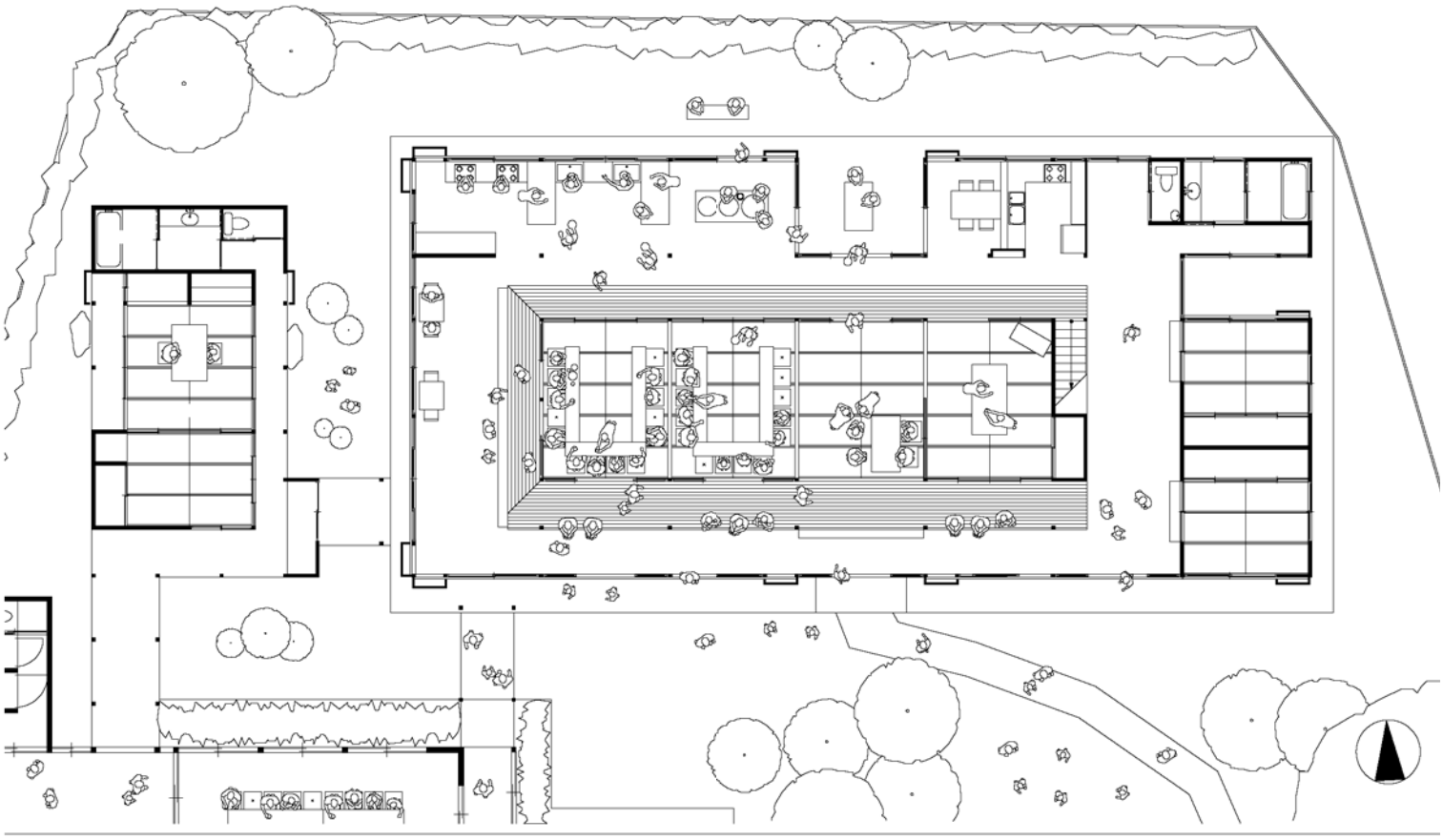
庫裡において最も重んじられる機能は公的空間としての広間と厨房である．そこでの問題としてそれらの狭さ，厨房設備の不備があげられる．現在の庫裡においては限られた空間で様々な場面に対応してきたのに対し余裕のある空間の確保と行事以外での壇信徒による厨房や広間の利用が可能になること，公私の両方の場合に利用できることが求められている．つまり私的空間と公的空間の明確な区別化によって行事時外にも多様な利用ができる，より開かれた空間のあり方が要求されていると考えられる．そこでここでは庫裡の現状の公私の領域構成の利点と改善点を考慮し公私の領域を新たに構成し設計を行った．

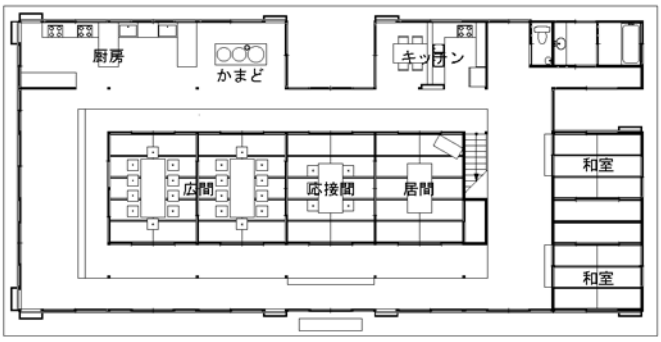
□計画案について

計画案では中央に庫裡の主たる機能である広間を現在の庫裡同様に和室の続き間として配している．この広間は応接間，居間とも続き間になっており，襖と障子の開け閉めによって10畳の個室から最大40畳の広間になる．ここでは建具が各空間と空間の接続面となり主要な空間同士を仕切るものであり接続するものとなっている．この主たる空間，広間の周りを下屋が巡り廊下，土間空間が他とのつなぎの空間となっている．広間から，一巡している土間を介して，下屋には北側に厨房，寺族の私的な台所，風呂，トイレ，洗面，東側に寺族の個室が配されている．南側及び西側はゆったりとした土間であり，建物を巡る開口部から外部空間へと緩やかな繋がりをもつ開放的な空間で，多目的な利用が可能なスペースになっている．また，応接間と居間の2階部分には屋根裏を利用した個室と書斎を設けている．居間と水回り外の寺族の私的な空間は，土間または階段を介することでその境界を明確化し，よりプライベートな空間をつくっている．私的空間のうち居間に関しては，寺族が庫裡全体を管理し，訪問者に対応しやすいように応接間と並列している．寺族の団らんの場であるが，現状の庫裡のように壇信徒や近所ともより身近な交流ができる位置に配した．土間と続き間は公私が重なる領域であり，行事等の場面によって使い分けられる空間である．

□まとめ

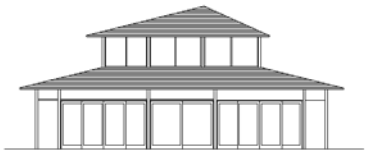
このように土間というつなぎの空間で「主たる空間」であり公的空間である広間を一巡し，また，土間を介してその周りに「他の空間」である厨房と私的空間である台所，風呂，トイレ，個室が配されることで境界の穏やかな部分，つまり公私が重なる領域と，境界が明確な部分，つまり私的な空間が緩やかに繋げられた．



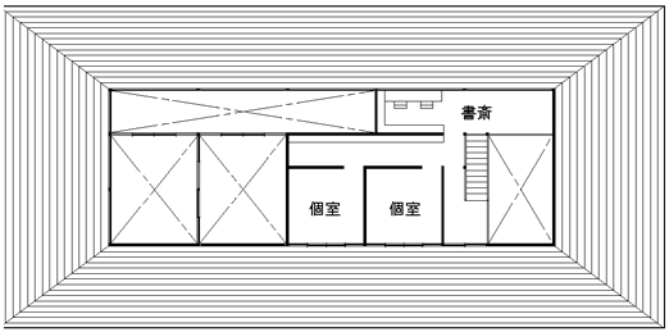


1F PLAN

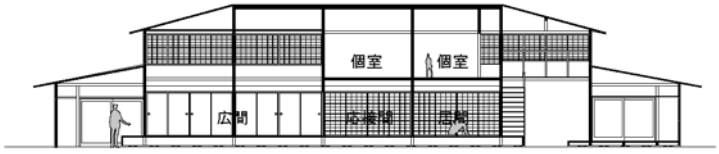
SOUTH ELEVATION



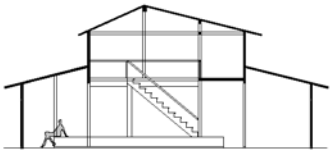
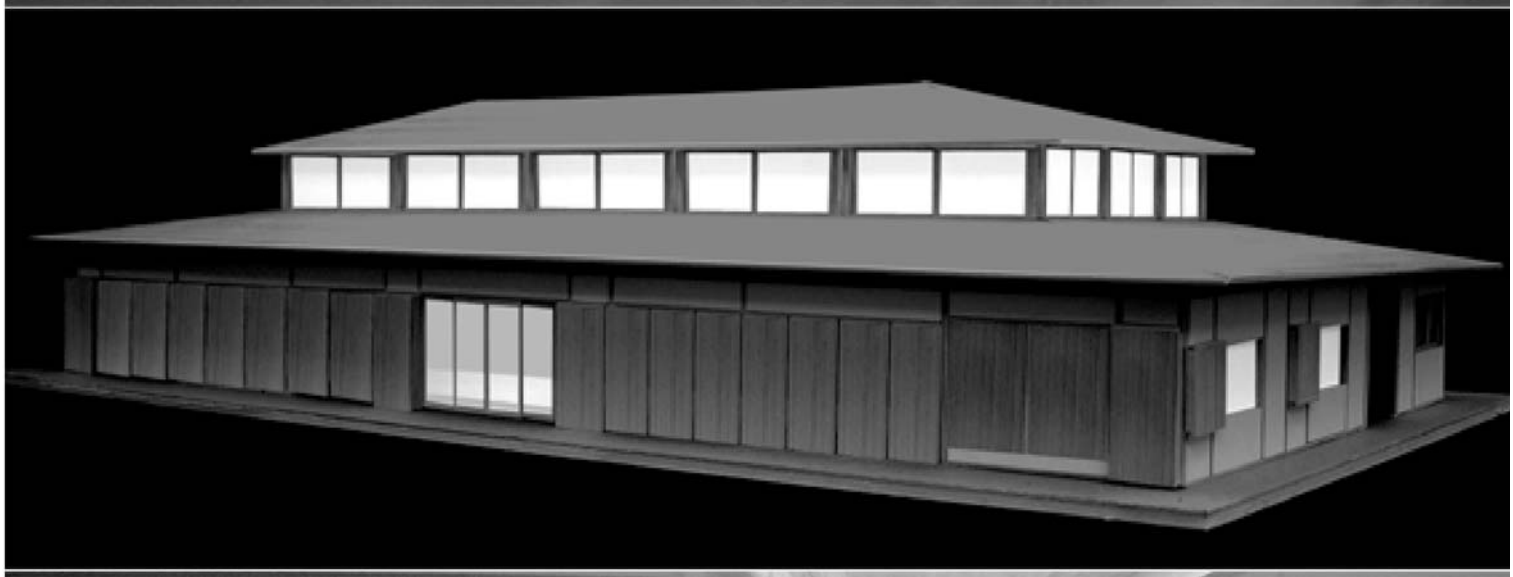
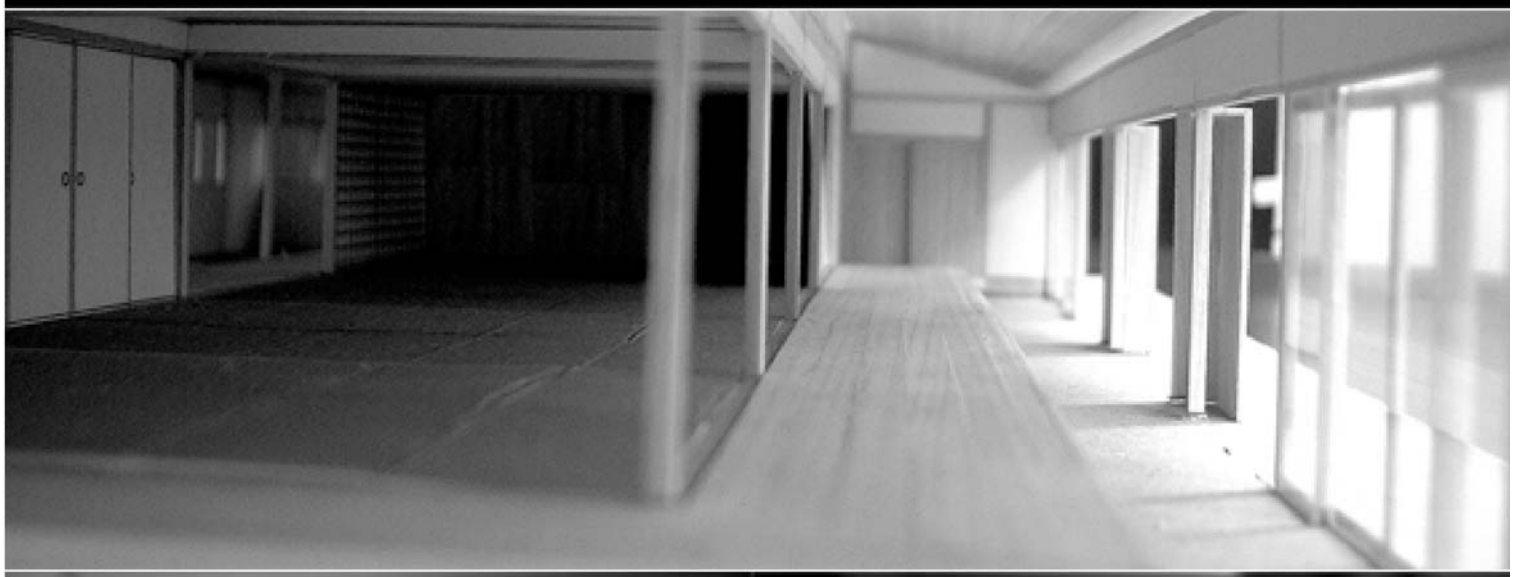
EAST ELEVATION



2F PLAN



SECTION



SECTION